校長研修だより４

教師の「考えなさい」とICT活用

2021・4・26　重枝 一郎

先週末はスプリングキャンプ，親睦遠足お疲れさまでした。ありがとうございました。

さて，さまざまな学校の先生方の授業をのぞいてみると，教師の手にはチョークの代わりにタブレット，生徒の机の上にもタブレットといった日常が見られるようになっている。

以前見学した歴史の授業で，前方に設置されたスクリーンに，教師が事前に用意した，時代の異なる歌舞伎の絵が２枚大きく映し出された。アニメーションや効果音を使い，生徒も興味津々で見入る。「2 枚の絵を比較してみましょう」と教師が呼びかけると，生徒はいとも簡単にタブレットを操り，絵を切り取って，２枚を並べる。それから，絵にペンで印をつけた。教師用のタブレットには，生徒の全タブレットの作業の様子が映し出され，作業の進行度合いがわかる。生徒は作り上げた画像を前方スクリーンにその場から映し出し発表する。前に出てくる必要はなく，授業は進められた。

私たちは，ＩＣＴの効果的な活用実践を増やしていくことになる。タブレットなどをどのように使うかということをトライ＆エラーを繰り返しながら考えていく。そのトライ＆エラーの過程で気付かされるのは，おそらく「授業それぞれで，思考の型が違う」ということではないだろうか。

教師は，生徒に対し，「考えてみよう！」と言う。そこで自分の授業中を想像してみてほしい。例えば，美術の授業で「絵を見て考えなさい」であれば，自由な発想を求めているかもしれない，理科の授業で「水の流れを考えなさい」であれば，分析を求めているかもしれない。この話からも分かると思うが，「考えなさい」に対する“思考の型”がある。

この“思考の型”は「問題を発見する」「自由に発想する」「分析・分類する」「試行錯誤する」「まとめる」などがあると思う。それに応じて，生徒が手に持っているＩＣＴの活用方法が違ってくる。例えば，「自由に発想する」ときには，タブレットで文字や画像などを編集する活動が向いていて，「分析・分類する」ときには，画像などを繰り返し見返す活動が向いている。つまり，“思考の型”に応じて，どのようにタブレットを活用すべきなのかを考えてみることが大切になってくる。

その思考錯誤の中で，そのうち生徒はタブレットを文具のように使うようになっていくと思う。まずは，私たち教師は，授業でＩＣＴを活用し，効果的・効率的にし，時間を生み出し，深く考えさせたり，アイディアをつくり出したりする時間を増やしていけたらいいと思う。

【ポイント】

◆「教師が教える（知識伝達）」から「学習者が学び合う（資質・能力）」授業への変換

◆「教員主導の教具」から「学習者中心の文具」という考え

■ ICT 推進チーム（各学年１名，教務主任）

J1 落合，J2 畑中，J3 柿原（リーダー），S1 高城，S2 萩尾，S3 松原，越智教務主任になります。まずは，機器の決定等を事務長とミーティングしていただき，その後，ビジョンや研修等を企画立案していただきます。みなさん同様に役職があるにもかかわらず引き受けていただきました。みなさんには明るくコミュニケーションをとりながらポジティブに推進していけるようご協力お願いします（一体感）。また，平野生徒指導部主任にも生徒を参画させたルール作りの協力をお願いしています。

（私を含めた ICT が苦手な先生は，笑顔で機嫌よくついていきましょう）